

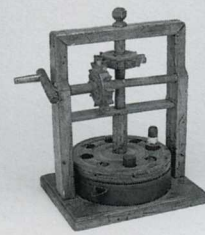
書聖 北方心泉

平成17年9月21日(水)～平成18年2月26日(日)

- ◆前期／9月21日(水)～11月9日(水)
- ◆中期／11月10日(木)～12月28日(水)
- ◆後期／1月4日(水)～2月26日(日)

北方心泉は明治時代を代表する書家の一人です。心泉は江戸時代の末期である嘉永3年(1850)に、金沢市木ノ新保にあって常福寺(真宗大谷派)の三男として生まれました。幼名は郁護法磨、25才の時に蒙と改めました。心泉と号し、ほかにも月莊・小雨・雲遊・文字禪室主人・聴松閣主人などをういました。

心泉は清朝末期に海外布教のため上海に渡り、その地で石碑や拓本に学んだり、文人たちと直接交流し、北魏の書風を摂取しました。心泉の書は、篆隸の書を行書や草書のように自由に書くという意味をこめて「篆草合体の自由奔放」と称され、見るものを圧倒する書風を確立しました。

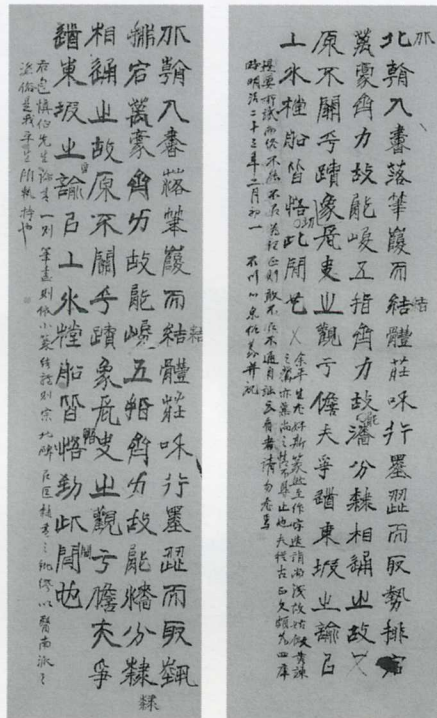


「車硯」



「心泉愛用の子母印」

「草稿 包慎伯 先生論書一則」(前期)



(二稿)

(初稿)

金沢市有形文化財『常福寺歴史資料』

平成14年12月、常福寺が所蔵している歴史資料1,611点が「金沢市有形文化財」に指定されました。常福寺の十四世住職であった心泉に関連する資料が最も多く、今回の展示品もその大半が金沢市の指定文化財です。



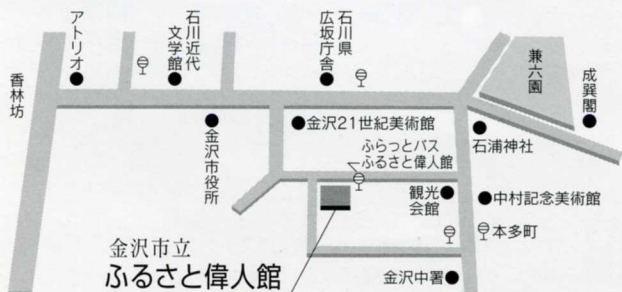
「真如一実之信海」(中期)

「己の生き方や見識が根底にあり、これらが融合して性情となる。これを基本にしてその時の感情、心の内なるものを書技、書法という表現手段を通して紙上に発露させたものが自分や人々に快楽を与える。これが、芸術としての『書』である。」

(心泉著『書法定義』より)



心泉の左書き「壹得盡」(後期)



交通案内

- 金沢駅東口10番のりば 本多町下車 徒歩2分
- 金沢駅東口1番のりば「城下まち金沢周遊バス」 本多町下車 徒歩2分
- 「金沢ふらっとバス(菊川ルート)」 ふるさと偉人館下車 徒歩1分

GREAT PEOPLE OF KANAZAWA MEMORIAL MUSEUM

金沢市立 ふるさと偉人館

〒920-0993 金沢市下本多町6-18-4 TEL.076-220-2474 FAX.076-220-2197

<http://www.city.kanazawa.ishikawa.jp/bunho/ijin/>